

ちよんごころこころ

第一七五号

自浄其意

今月は敬老会が過ぎると御彼岸がきます。先祖の供養に舌を出し、閻魔の前では涙する」で
は困ります。閻魔帳に記載されたら消しゴムでは消せません。広島は災害ではないですが人間
を何時卒業してしまうのか、先祖に成っても魂は不滅ですから供養するのも当然です。先祖の多
い方は大変だとは思いますが、先祖が多いという方はルーツが古く正しく祀り事をしてきた証し
であり、尊い家柄なのです。祀り事を託す子孫に悩みのある方は生前に自分の供養をしておきま
しょう。佛が説く世界にも東に東勝身洲 西に西牛貨洲 南に南閻浮洲 北に北俱盧洲があ
り、我々は南の南閻浮洲という宇宙に生息しています。そして地獄・餓鬼から始まる十界に分
別されています。昨今人間として生きる術を忘れ畜生修羅に落ちた行動をし、目に余るものが
あります。しかしながらそれらは因縁がさせる所作であると思っています。何故ならば、我々は
釈迦が説かれた教え 宿世の業により子は親を選べず、親も又、子を選ぶ事はできません」。持
つて生まれた宿縁ですが釈迦が初めての説法で 苦集滅道「苦界を乗り越える為には八つの正道
があることを示されました。病は気からと申します。私は医療の及ばないところもあると思っ
ています。心の病は佛菩薩におすがりするより道は無かるう。ここに信仰の重みがあるのです。

STAP細胞論文については喧々諤々、少し静かに成ったかと思いきや、理化学研究所発生・
再生科学総合研究センター 神戸市)の笹井芳樹副センター長(五十二歳)が八月五日に自殺、
またもや物議を醸し出すことでしょう。笹井氏に信仰があつたかどうかは別問題として、静かに
ご冥福を祈り慎んで菩提の供養をしてあげることです。間違っても此の事をネタにすべきでは
ないでしょう。佛を敬い、そして人を愛す」べし、この世に頂いた命を粗末にせず、自分の身
を敬えるような生活をしましょう。不徳の所作をして、この身を苦界に沈めることの無いように
生きていきましょう。我々は皆、佛性」を持って生まれてきます。佛様から頂いた 血肉、魂
この身」を大切にするのは当然の事です。私は釈迦をはじめ各祖師方が求められた覚りがこの佛
性にあり、心身の健康にあると思っています。

大峯 顯氏 訳によるとゲーテ七五歳の時 死のことを考えても、私は少しも不安にならない。
なぜなら、我々の精神は決して滅びることのない存在であり、永遠から永遠にむかって休みなく
活動しつづけるものだということを私は固く確信しているからだ。それはちようと、太陽がわれ
われ地上にいる者の目には沈んでいくように見えるけれども、実際は決して沈むことなく、常に
輝きつづけているようなものだ」。と話をされたそうです。私は文豪ゲーテもドイツ人ながら魂
の不滅を信じ、覚りを得た人だと思えます。現在では何事に於いても実証が重んぜられるよう
なってきましたが、東洋の文化には西田幾多郎氏ではないが形なきものの形を見、声なきもの
声を聴くと言った思想が流れていると思えます。世の中不可思議なこと分らない事が多いから
です。奇奇

二十六年九月一日

善書堂善入院油掛地藏尊